おひさまだより

令和５年１１月１日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森おひさま保育園

園 長　免出 智美

運動会では、ご来園いただき、たいへんありがとうございました。一人ひとりの子ども達に温かい拍手の応援をおくっていただいたことに心から感謝申し上げます。各年齢のそれぞれの育ちをみていただき、運動会の経験は、体を動かすことの楽しさや自信、喜びの心を育んでいます。11 月は、園外保育を十分取り入れ自然の変化に気付いたり、自然の中でしっかり身体を動かし、心身ともに充実した月にしたいと思います。

11 月行事予定

月	日	曜	行　事　予　定
11	4	土	お弁当の日
	7	火	ペポさんの人形劇観劇 おひさま広場（未就園児）
	8	水	秋の遠足（ひかり組）
	9	木	芋ほり
	14	火	内科健診（14：00～）
	15	水	身体測定（乳児組） 園庭開放
	16	木	身体測定（幼児組） 食育*お好み焼き
	20	月	個人懇談（ひかり組）
	25	土	お弁当の日
	29	水	おひさま広場（未就園児）

お弁当の日：４日、25 日　　※変更の場合あり

♫生の音に触れる経験♫

先日、コール・ドルチェによるミニコンサートが行われました。今の子ども達は、スマートフォンなどの普及により、音楽コンテンツに触れる機会が増えています。生演奏と録音では、音の質や音を聴くメカニズムが全く異なります。録音の音楽体験に慣れている子ども達にとって、生の演奏の音楽体験は、耳だけでなく、空気に溢れた音を全身で感じることができた時間となりました。

子どもをぐんぐん伸ばす親の 40 の習慣から、いくつか紹介します。
詳しく読んでみたい方は、貸し出しも行いますので事務所の方へ
声をかけてください。

子どもを伸ばす親は、子どもが自分で選んで決める力を育み、ダメにする親は、なんでも親が決め「他人のせいにする子」に育てる。

○日常の小さなことから、自分の頭で考えさせる。食事でも「は～い、あ～ん。」ではなく「どちらから食べる？」と選ばせる。
×なんでも親が決めて子どもにさせる。子どもは自分で選んで歩んできた感覚が持てず、他人のせいばかりにする人間に育つ。

例えば遊んでいるとき「あと 5 分したら帰ろうか。それまで遊んでる？それともすく帰る？」と選ばせる。子どもは、その時点での達成感や満足感から、すぐに帰るか、時間まで遊ぶかを考えて選択するでしょう。小さい頃からの積み重ねで主体性を育む必要があるのです。

子どもを伸ばす親は、一時に一時で教え、まず一つできるのを待ち、ダメにする親は、。矢継ぎ早に指示をして子どもの自信を損ねる。

○一時に一事で伝え一つできるのを待ち、出来たら褒めてから次の指示をだす。
×「洋服をしまいなさい」「鞄をかけなさい」いっぺんに複数のことを言ったり矢継ぎ早に指示を出したりして混乱させる。

「洋服をしまおうね」子どもがしまっている最中に「靴が脱ぎっぱなし」慌てて玄関に行く子どもの背中に「鞄をかけなさい！おもちゃをしまいなさい！」矢継ぎ先に指示を出し、次には「まだ洋服をしまっていない！」ダメ押しに「だらしがない！片付けもできないんだから」子どもは大人の剣幕にあたふた、おろおろ。そして「散らかったままの結果」と親の機嫌を損ねたことに無力感を感じ、思考が止まってしまいます。まず、一時に一事で教える、伝える、待つゆとりを持つ。一つの物事を確実にできるようにすることで物事を見通し並行して進める力がついてきます。

ドキュメンテーションから抜粋

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。

どんぐり（0 歳児）　「小さなお山～触って崩して～」

小さな砂山を保育者が作り、それを友だちが山を崩すことを楽しんでいる姿をじっと見ていました。指先や手のひらを使って砂の感触を味わったり、真剣な表情で繰り返し山を崩すことを楽しんでいました。友だちが楽しんでいる姿を見て、”やってみよう”と同じように模倣したり、五感を使った遊びを経験しています。

たけのこ（1 歳児）　「ぴったり入る」

片付けることも遊びの一つになっている姿です。どうすると箱の中に入るのかを考えながら並べていき、ぴったり入った時の嬉しさや気持ちよさを感じて片付ける楽しさを知っていきます。

りす（2 歳児）　「ちぎって・丸めて・よく見て・えい！」

長さ比べをするようになり、長いツルをしっぽに見立てたり、アーチ状にしていたので、輪っかを作ってみると頭に乗せて冠にしたり、腕にはめて「カバン♪」と見立てていましたが『投げて入れる』ということに興味を持ち挑戦してみる中で集中力や物との距離感、腕の力加減なども調節して繰り返し楽しんでいます。

うさぎ（3 歳児）　「どんぐりゴール」

廃材を選べる環境やテープ、ハサミを自由に使える空間を用意すると、自分たちで遊びを考えて楽しみ始めました。初めての廃材遊びに友だちと協力しながら遊びを発展させたり、イメージを形にして表現しようとしています。

そら（4 歳児）　「スイートポテト楽しみだな！」

芋をつぶしたり、手で丸めたりのスイートポテト作り。芋は思っていたより固く、「どうしてこんなにかたいの？」とどうやったら力が入れられるか両手で工夫しながら潰していました。グループに分かれ、つぶす順番や回数ををみんなで守ったり、友だちがつぶすときにはボウルを持って手伝ってあげたり。友だち同士の団結力や思いやりが感じられる時間にもなりました。

ひかり（5 歳児）　「みんなで協力だ」

ひかり組の仕事が舞い込んできました。「大きなサツマイモができてるといいな」と期待感をもちながら、ツル取りを行いました。どんどんツルがなくなっていくと共に達成感を感じている姿がありました。一人ではできないことは友だちに協力をお願いしたり、役割分担をしたりし、周りの状況を見ながら行動しています。